

- 1. 人権が尊重され、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり
- 2. 良好な環境が整った、快適で安全・安心なまちづくり
- 3. 活力ある産業に満ちた、にぎわいあふれるまちづくり
- 4. 明日の彦根市を担う人を育(はくく)むまちづくり
- 5. 人とひととの交流をひろげ、市民文化を創造するまちづくり

認知症を地域で支える 特集

理解から行動へ

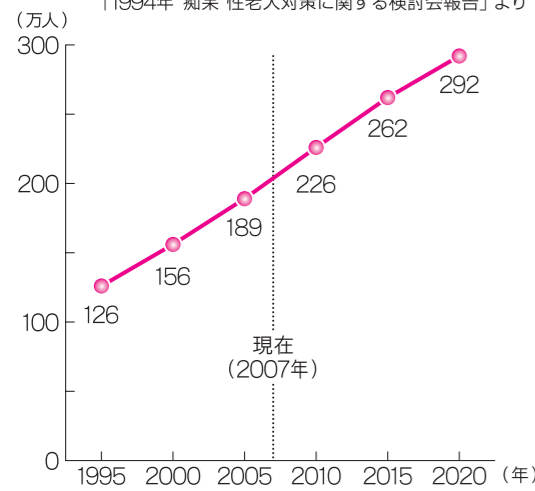
～さあ、認知症サポーターになろう～



▲企業を対象に行われた認知症サポーター養成講座。企業も含めた地域全体で認知症の人を支えるまちづくりに向けに取り組んでいます

認知症の高齢者数の推移予測

厚生省（現在の厚生労働省）
「1994年 痴呆[※]性老人対策に関する検討会報告」より



※現在は、「認知症」へ名称が変わっています。

認知症は、さまざまな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために、新しいことを覚えられなくなったり、感情のコントロールができなくなったりして、生活に支障が出てくる病気の総称です。厚生労働省の統計資料によると、全国的に高齢化が進み、それとともに認知症の高齢者も年々増加し、2010年には約226万人、2020年には約292万人に達すると予測されています。

認知症を引き起こす病気の中で、もっとも多いものは、脳の神経細胞がゆっくり死んでいく病気です。代表的な病気がアルツハイマー病です。

認知症は、だれもがかかる可能性のある病気です

続いて多いのが、脳血管性認知症です。これは、脳梗塞^{こうそう}などが原因で、神経の細胞に酸素や栄養が行き渡らなくなり、その結果、神経の細胞が死んだり、働きが悪くなるために起こります。このような病気が原因で起こる認知症の症状には、中核症状と周辺症状があります。(下図)

中核症状は、脳細胞が壊れることによって起こる症状で、記憶障害、見当識障害、理解・判断力の低下、実行機能の低下などが挙げられます。中核症状は、病気が進行するとだれにでも見られる症状ですが、このほかにも、本人の性格、環境、人間関係などによって、さまざまな症状が現れます。これを周辺症状^{へいしんしょうじょう}といい、徘徊^{はいかい}や妄想^{まうそう}などが挙げられます。

認知症は、脳の認知能力に障害が起こる病気です。認知症の人は、目の前に人がいると、「人がいる」という事実はしっかり認識できます。しかし、「その人が、なぜそこにいるのか」「その人が自分とどういった関係なのか」といったことが、分からないことが多いのです。

認知症を持つ人を支えるために、現在全国各地で進められているのが、認知症についての理解者となる「認知症サポーター」を増やすことです。次のページで、認知症サポーターによる支援について、紹介します。

認知症の症状

脳の細胞が死んだり、働きが悪くなったりする

中核症状 (病気が進行するとだれにでも見られる症状)

記憶障害 新しいことを覚えられない、同じ事を繰り返す など	見当識障害 現在の年月や時刻や自分がどこにいるかが分からなくなる など	理解・判断力の障害 考えるスピードが遅くなったり、赤信号でも渡ってしまう など	実行機能障害 計画を立てて料理をすることが、うまくできない など	感情表現の変化 感情がコントロールできない など
---	---	---	--	------------------------------------

性格・素質

環境・心理状態

周辺症状・随伴症状 (性格や周囲の環境によって起こる症状)

- 不安・焦燥
- うつ状態
- 幻覚・妄想
- 徘徊
- 興奮・暴力
- 不潔行為
- せん妄

一般に、85歳以上の4人に1人の割合で認知症の症状があるとされています。また、高齢社会の進展により、認知症患者数は、今後20年で倍増することが予想されています。

認知症は、だれもがかかる可能性のある病気です。認知症の症状によって日常生活に支障が生じたり、周囲の人との関係が損なわれたりして、家族も疲れきって共倒れしてしまうこともあります。しかし、病気であっても認知症について正しく理解し、地域で、ちよつとした応援をしたり、支援をしたりすることによって、多くの人が住み慣れた地域で穏やかに生活することができます。

問い合わせ先 困介護福祉課
☎23-9660番、FAX
26-1700番